

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

平成27年度技術情報第6号（果樹カメムシ類）について（送付）

このことについて、今後の防除指導の参考にしてください。

平成27年度技術情報第6号

1 対象害虫 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）

2 対象作物 果樹全般

3 発生地域 県本土

4 情報の内容

本年の果樹カメムシ類の越冬量、予察灯の誘殺数は平年より多い。また本年は、餌植物（ヒノキ、スギの球果）の着果が少ないことが予想されるため、餌不足による果樹園地への飛来に注意が必要である。

5 情報の根拠

(1) 越冬量（1月調査）

ツヤアオカメムシは、越冬密度が平年比約3倍、越冬地点率は平年比約2倍、チャバネアオカメムシは、越冬密度が平年比約2倍（過去最高の地点（8.7頭/m²/地点）を除く）、越冬地点率は平年比約2倍であった（※平成27年度技術情報第1号）。

(2) 予察灯誘殺数（4～5月調査）

ツヤアオカメムシでは平年比約2～5倍（垂水市を除く）、チャバネアオカメムシでは、平年比約2～11倍と多い（表1）。

表1 予察灯の誘殺数（4～5月合計）

地点名	ツヤアオカメムシ (多)				チャバネアオカメムシ (多)			
	本年 (頭)	前年 (頭)	平年 (頭)	平年比 (%)	本年 (頭)	前年 (頭)	平年 (頭)	平年比 (%)
垂水市	81	2	987	8	175	13	97	180
南さつま市	1,051	49	220	477	555	10	85	652
いちき串木野市	774	2	210	369	506	0	47	1,077
薩摩川内市	599	65	155	386	478	4	210	228
出水市	2,088	873	1,088	192	1,892	50	531	456

※ 平年は、垂水市と薩摩川内市が過去10カ年、他は4カ年の平均

(3) 餌植物（スギ、ヒノキ）の花粉飛散量（2～4月調査）

花粉飛散量は、スギで平年比0.2～0.8倍、ヒノキで平年比0.2倍未満と非常に少ない（図1）。このため、餌となる球果が少ないことが予想される。

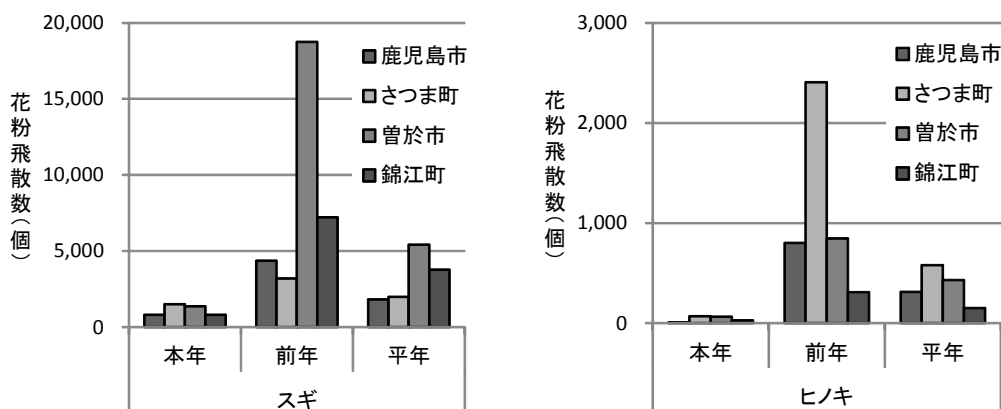


図1 スギ、ヒノキの花粉飛散量（2～4月合計個数：個/cm³）

※ 鹿児島県医師会調べ、平年は、スギ過去9カ年、ヒノキ過去10カ年の平均

6 防除上注意すべき事項

- (1) 飛来は地域間差、ほ場間差があるので、園内の発生状況の把握に努め、発生に応じて防除を行う。また、収穫期の近い樹種では特に注意する。
- (2) 飛来を認めた場合、一回目の防除は残効の長い合成ピレスロイド系薬剤またはネオニコチノイド系薬剤を選択する。合成ピレスロイド系薬剤は、ハダニ類の発生を助長するので、散布後のハダニ類の発生に注意する。
- (3) チャバネアオカメムシの被害が多いほ場では、黄色蛍光灯（波長500～600nm）を集団点灯すると飛来防止効果が高い。
- (4) 果実への袋かけや目合い4mmの防虫ネットを被覆することで被害の軽減を図る。
- (5) 発生状況（予察灯の誘殺状況）は、病害虫防除所のホームページで確認ができる。

<参考資料>



図2 ナシ幼果のカメムシ類の被害

吸汁跡は凹みごつごつとした外見となり、吸われた跡はスポンジ状にスカスカになる。